

## トピックス

### 予防接種で、インフルエンザに負けないぞ！

今冬のインフルエンザ総合対策が発表されました。  
詳しくは下記ホームページをご覧ください。

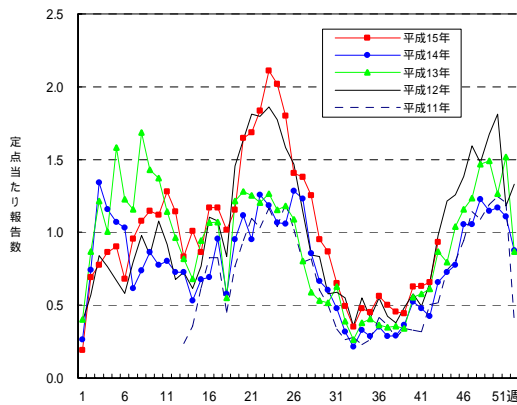
厚生労働省：<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>

国立感染症研究所感染症情報

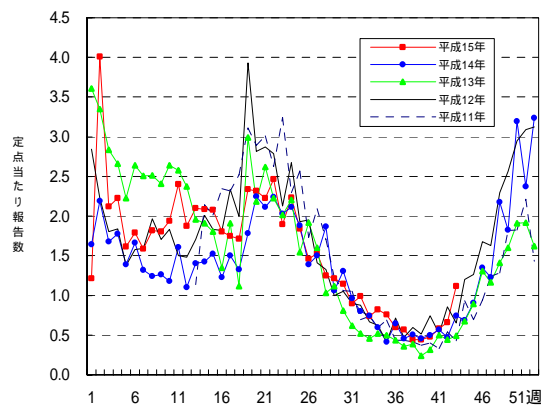
：<http://idsc.nih.go.jp/others/topics/newpage2.html>

## 流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



疾患名	前週	今週	備考
<u>感染性胃腸炎</u>	1.8 ↓	2.5 ↑	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	0.66 ↑	0.93 ↑	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症
<u>水痘</u>	0.66 ↑	1.12 ↑	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人につる感染症
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.46 ↑	0.46 →	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 4定点からコメントでの患者発生報告あり
定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数	
↓ 減少	→ 横ばい	↑ 増加	

感染症についての説明及びグラフ総覧については、  
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。  
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 1 歳男、2 歳男、29 歳女、25 歳女

病原性大腸菌 O18 3 歳男

病原性大腸菌 O20 36 歳女

病原性大腸菌 O25 5 歳男、7 歳男、3 歳男

病原性大腸菌 O128 1 歳男、2 歳男

病原性大腸菌 O153 7 歳男

カンピロバクター 6 歳男

サルモネラ 6 歳男

ロタウイルス 大人 1 名、子供 17 名

マイコプラズマ肺炎 17 歳女

ロタウイルス感染症が非常に多くなってきており、感染性胃腸炎の著増ぶりをどう解釈したらよいのでしょうか？（\*）

【尾西市 城後小児科】

マイコプラズマ肺炎 11 歳男

感染性胃腸炎流行の兆し

ヘルペス歯肉口内炎 8 歳女

【一宮市 後藤小児科医院】

嘔吐高熱を主訴とする胃腸炎が見られる様になりました。ノロウイルスでしょうか？（\*）大人も罹患します。

まだ、手足口病 散見されます。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎が増加しています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌が散発しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

34 歳女 マイコプラズマ感染症

【春日町 丹羽医院】

### \* 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎は単一の疾患を意味するものではなく、多種多様な病原体による胃腸炎を広く包含します。その流行曲線は 12 月にみられる比較的シャープなピークと、1~3 月にみられるなだらかなピークとからなります。前者の多くはノロウイルス、後者の多くはロタウイルスによると考えられています。

いずれにしても、これから流行期に入りますので、手洗いの励行など、一般的な食中毒予防対策が必要です。

---

## 尾張東部地区

---

マイコプラズマ感染症が多くみられます。 肺炎 9歳女

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週もマイコプラズマ感染症多数みられました。(家庭内での感染例も数例ありました。)

アデノウイルス感染症も数例あります。(全て迅速診断キットで陽性でした。)

その他今週は目立った感染症はありませんでした。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

手足口病が再び増加。

溶連菌感染症増えてきました。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

A群溶連菌(+)

化膿性扁桃炎が2例ありました(6歳男、8歳男)。

【春日井市 かちがわ北病院】

ムンプス流行している。

喘息増加

【小牧市 小牧市民病院】

溶連菌感染症が増加しています。

【小牧市 志水こどもクリニック】

サルモネラO1(+)、H-G(+ ) 31歳男

カンピロバクター(+ ) 9歳男

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

1歳男、5歳男 病原性大腸菌O25

0歳男 病原性大腸菌O8

5歳女 strepA(+)(溶連菌検査)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

2歳男、3歳男、4歳男、6歳男 サルモネラO4腸炎

2歳男 サルモネラO9腸炎

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

6ヵ月女、1歳男、32歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)

10ヵ月女 病原性大腸菌O158 VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

1歳女、2歳女 病原性大腸菌O1

9ヵ月女 黄色ブドウ球菌(+)

【岡崎市 花田こどもクリニック】

1歳4ヵ月男 病原性大腸菌O6

【岡崎市 医療法人深田小児科】

1歳男 病原性大腸菌O25、サルモネラO9

2歳男 病原性大腸菌O18

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

水痘・溶連菌感染症増加傾向

【碧南市 永井小児クリニック】

ムンプス流行中です。

【知立市 宮谷クリニック】

---

溶連菌感染症が少しみられます。

【三好町 三好町民病院】

---

### 東三河地区

---

6歳男 マイコプラズマ肺炎

【豊橋市 野村小児科】

1歳 サルモネラO9(+) (腸炎+熱性痙攣)

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

1歳女 ロタウイルス

【小坂井町 医療法人宝美会 総合青山病院】

水痘児あるも大きなひろがりはなし。一部の地域に限られてる。

【田原市 かわせ小児科】

---

### 1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

---

発生報告なし

### 全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

---

デング熱 1例 (推定感染地域：インド)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝夕めっきり冷込むようになりました。ぼつぼつ感冒も流行しているようで通勤電車の中でマスクをした人を見かけるようになりました。ただ、流行性のものというよりは急に空気が冷たくなったので気道過敏状態の水鼻かなとも思います。いつも貴重な情報を有難うございます。10月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはアデノウイルスによると思われる急性咽頭炎・扁桃炎が比較的多く、水痘とムンプスが散発中で肺炎・気管支炎など下気道ウイルス感染症が増加中、マイコプラズマ感染症と感染性胃腸炎もあり、城北病院渡辺先生からは外来患者はまだ多くなく、マイコプラズマ肺炎散見、アデノウイルス陽性者がまだ時にあり、第二日赤岩佐先生からは特に目立った感染症はなく、気管支喘息の患児が多い、千種区今枝先生からは感染症は少なく感染性胃腸炎2名、かぜ(熱、咽頭痛、頭痛など)がぼつぼつ、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎が少し目立ち、感染性腸炎2名(病原性大腸菌O128、O18)、マイコプラズマを含む肺炎の入院7名、中京病院柴田先生からはマイコプラズマ肺炎が増加中、労災病院山田先生からは膿痂疹、1日だけ高熱のでるウイルス性急性咽頭炎、頭痛と高熱(1-2日)のウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎、ブ菌性火傷様皮膚症候群、感染後喘息発作、アレルギー-性紫斑病続けて3例、大同病院水野先生からは水痘増加、伝染性膿痂疹、ブ菌性火傷様皮膚症候群、現在流行中の風邪は熱も1-2日で胃腸炎症状の児が多く、病棟はとにかく喘息が多いとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：江南市昭和病院小児科からはムンプス、A群溶連菌感染症、嘔吐を主訴とする感染性胃腸炎が多く、入院を要する喉頭炎が目立つ、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症(要入院例あり)、ムンプス(髄膜炎あり)、手足口病、細菌性腸炎、アデノウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは喘息が多く、典型的なパルボウイルス感染症による貧血発作の子がいた、加茂病院梶田先生からは手足口病の小流行あり、ムンプス、水痘がやや多く、肺炎ではマイコプラズマが多い、知立市近藤先生からはムンプスがパラパラ、高熱性感冒がやや多く、感染が誘因の喘息発作が多く、原因不明の高熱2名、刈谷市田和先生からはムンプス、感染性胃腸炎、突発疹、いずれも少数散発、高浜市立病院岩井先生からは特に目立つ感染症なし、碧南市永井先生からは水痘とムンプスが散発、豊橋市長屋先生からは感染性腸炎が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

**2003年9月26日（78巻39号）**

ポリオウイルス：分離野生株とワクチン株の実験室内診断状況調査。02年1月 - 03年6月。1988年以降ポリオ根絶を目標としてWHOは急性弛緩性麻痺患者（AFP）便材料からのウイルス分離の国際的検査網を設立。地球規模のポリオ根絶に重要なこの活動の最近の結果のまとめである。世界各地の145研究施設がポリオウイルスの分離、野生株かワクチン株かの型内検査、遺伝子解析を実施。検査網は末端の123施設（83国立施設、40準国立施設）、次いで15のWHO地域別施設、さらに7カ所の地球規模の専門施設が担当している。02年1月 - 12月、世界全体で71,478検体、03年1月 - 6月には世界全体で29,232検体が検査された。02年には野生株3,346株、ワクチン株2,948株が分離され、非ポリオウイルスは15%、95%が検体搬入後28日中に検査されていた。03年1月 - 6月では野生株406株、ワクチン株985株、非ポリオウイルスは12%、96%が検体搬入後28日中に検査されていた。野生株の血清型：02年1月 - 03年、1型野生株と3型野生株がアフガニスタン、インド、ニジェール、ナイジェリア、パキスタンで、1型野生株のみが他のアフリカ5カ国で分離され、02年末 - 03年初頭にインドで2型が分離されている。遺伝子解析からこれら野生株のうち7カ国（アフガニスタン、エジプト、インド、ニジェール、ナイジェリア、パキスタン、ソマリア）が常在地における流行株、他は輸入例であった。ワクチン株由来の分離ウイルス：02年1月 - 03年6月にAFP患者材料から3,933株のワクチン株が分離された。遺伝子解析の結果これら分離株のうち3,916株がセ - ビンワクチン由来、17株が他の由来であった。

デング熱：国際会議。WHO本部、東南アジア地域、西太平洋地域の専門家による情報網「デングネット」発足。今後の流行増加が予測され、重要で貴重なネットとなる。

インフルエンザ：03年9月。アルゼンチン：散発、オ - ストラリア：A型、香港：A（H3N2）型、ニュー - カレドニア：A型。ノルウェー、ペルー、タイ：いずれも散発。

9月19日 - 25日届出。コレラ：ニジェール、ペスト：モンゴル、黄熱：シエラレオネ、コロンビア、ペルー、ベネズエラ。

**2003年10月3日（78巻40号）**

黄熱ワクチン：WHOの方針。現在熱帯アフリカと南米が常在地、蚊による媒介：人から人への都市型と、猿から猿が主体で時に人が感染する森林型がある。

全世界で年間20万人が罹患、90%はアフリカ地区で都市型と森林型の混合で流行がよく発生、南米では森林型主体で局地的な発生がみられる。生ワクチンである17D株が60年来使用されているが、安全性と有効性から17D株接種が今後も対策の中心におかれるべきである。流行地における広範な一斉接種（特に高齢者）、流行が開始した場合の緊急接種、旅行者に対する接種、流行地住民や旅行者には追加接種よりも初回接種の普及が重要である。これと平行して蚊を駆除する環境整備を実施。17D株は分離野生株を発育鶏卵培養細胞で

10日で90%、30日で99%が抗体獲得し獲得抗体は30 - 35年以上持続。安全性は優秀で約4億人が接種をうけ軽い全身反応がみられただけであるが、重症卵アレルギー - 、脳症(1945年以来26例。16例が生後7ヵ月以下、24例が完治。内臓の急性疾患(Viscerotropic Disease.テキストには臨床的記述なし)による死亡。1996 - 2001年で7例。非常に稀。禁忌:生後6ヵ月以下の児。重症の卵アレルギー - 、免疫不全状態、妊婦。WHOの方針:当分は10D株ワクチン接種を普及。

髄膜炎菌髄膜炎:血清型W135の登場で大流行が発生。これに対応出来るワクチンが開発された。このワクチンを最も必要としている地区への援助が叫ばれている。

9月26日 - 10月2日届出。コレラ:コンゴ、リベリア、ニジェール、ウガンダ。

## 第41週(15年10月6日~10月12日)の4類感染症 (全国)

### 小児科定点報告疾患

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は週により緩急はあるものの減少し続けている。過去10年間の当該週と比較して依然として最高の値であり、過去10年間の当該週までの定点当たり累積報告数(平均)と比較すると2.8倍を示す大きな流行となっている。都道府県別では、愛媛県(0.6)、熊本県(0.5)、広島県(0.4)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第34週から増加傾向が認められているが、最近でも3週続けて増加している。過去10年間の当該週と比較して最高の値であり、都道府県別では鳥取県(3.2)、山形県(2.0)、宮崎県(1.8)が多い(「注目すべき感染症」参照)。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期(前週、当該週、翌週)と比較してやや多く、都道府県別では富山県(6.0)、福井県(4.9)、三重県(4.7)が多い。

### 基幹定点報告疾患

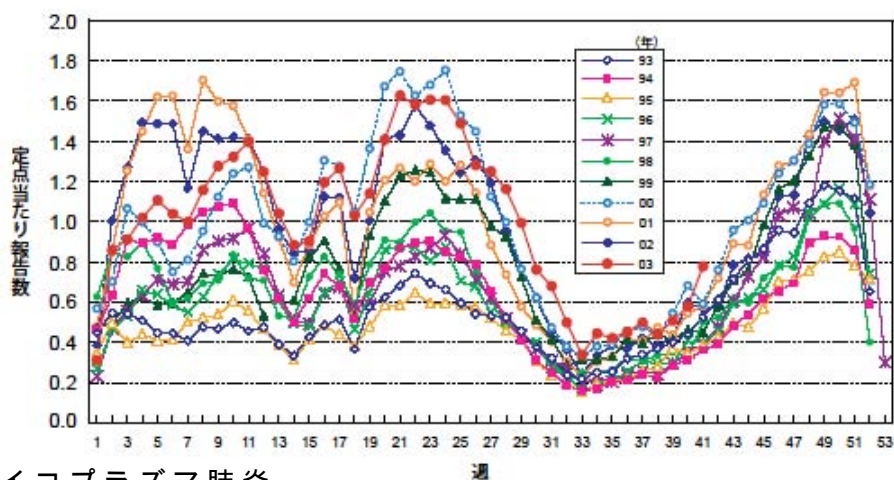
マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微減して0.29で、都道府県別では山形県(2.4)、岡山県(2.0)が多い(「注目すべき感染症」参照)。

### 注目すべき感染症

#### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌は多彩な臨床症状を引き起こすことが知られている。急性咽頭炎、膿痂疹、蜂巣織炎などがよくみられるが、特殊な病型として猩紅熱があり、これら以外にも中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎などをおこす。また、菌の直接の作用でなく、免疫学的機序を介して、リウマチ熱や急性糸球体腎炎をおこすことが知られている。近年、報告患者数は増加傾向にあり、これは迅速診断キットなどの普及による影響もあると思われる。患者報告は毎年これから冬にかけて徐々に増加してくるが、本年は例年より早く、報告数が増加している。第41週では例年より報告数が多くなっている(図参照)。年齢群別では4~6歳の報告が多い。

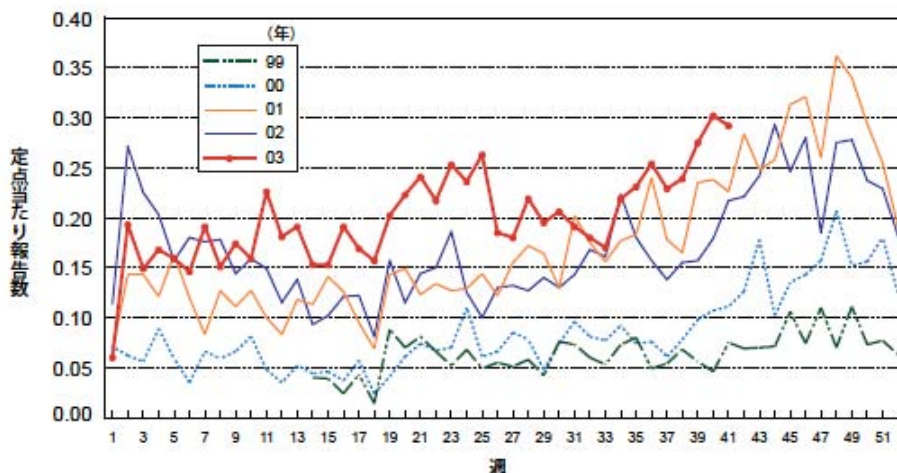
図. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年別週別発生状況



マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、1999年3月までの旧感染症発生動向調査では異型肺炎として報告されてきたが、そこでは必ずしもマイコプラズマ肺炎だけでなく、他のウイルス性の肺炎なども含まれていた。しかし、1999年4月以降の発生動向調査では、マイコプラズマ肺炎として独立した4類感染症定点把握疾患となった。また、旧発生動向調査では小児科・内科定点からの報告であったが、現在は全国約500カ所の基幹定点医療機関からの報告となっている。本疾患は従来、4年周期でオリンピックのある年に流行を繰り返してきたが、近年この傾向は崩れつつある。年間での推移をみると、晩秋から冬にかけて増加がみられていたが、感染症法施行後に新たなサーベイランスシステムになっても、この傾向に変化はない。図に感染症法施行以来の週別の定点当たり報告数を示す。2003年の報告数は過去の報告より高いレベルで推移している。今年は5月下旬～6月上旬に報告数が多かったが、ここ数週間も報告数の増加がみられており、今後の動向に注意が必要である。今冬のSARS対策としても、鑑別診断としてインフルエンザやマイコプラズマ肺炎のような呼吸器感染症は重要であり、可能な限り病原体を把握することが望まれる。

図. マイコプラズマ肺炎の年別週別発生状況



( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供 )

詳細は感染症情報センター - のホームページ

( <http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html> ) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。









愛知県感染症情報

2003年第1週～第43週(平成14年12月30日～平成15年10月26日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
計	38,582	1,107	5,495	20,095	9,749	9,191	1,368	4,612	59	41	4,727	137	3,913	27	917	1	7	12	186	0	4	
～6ヶ月	518	7	15	244	256	73	8	396	9		71	2	2		5							
～12ヶ月	1,096	40	26	1,300	592	451	47	2,791	13	2	446	27	23		13							
0歳																	3		3			
1歳	3,227	165	136	3,056	1,755	1,672	75	1,316	14	5	1,173	33	183		28				16			
2歳	3,245	174	300	2,285	1,647	1,622	122	84	3	2	907	10	314	1	24				17			
3歳	3,321	171	670	2,222	1,821	1,747	154	10	4	1	831	6	589	2	30				20			
4歳	3,516	166	1,031	1,968	1,692	1,523	206	1	4	3	563	8	776		27				16			
5歳	2,262	138	1,067	1,535	1,037	1,004	223	2	2	6	381	6	754	1	31							
6歳	1,825	82	785	1,138	429	473	184	4		1	150	7	464		10							
7歳	1,466	51	465	884	180	210	103	2	2	4	72	5	269		11							
8歳	1,304	40	310	717	116	138	100	3	2	3	32	4	180	1	13							
9歳	1,336	20	179	555	62	67	46			1	36	2	99		8							
5歳～9歳																		3	43			
10歳～14歳	4,860	23	249	1,333	100	95	68	3	2	3	28	17	166	1	36				26			
15歳～19歳	1,574	3	23	384	10	9	1				8	3	15		31			1	5			
20歳～		27	239	2,474	52	107	31		4	10	29	7	79			1	4					
20歳～29歳	2,768													10	152			3	11			2
30歳～39歳	3,054													2	193			3	15			1
40歳～49歳	1,182													2	91			2	5			1
50歳～59歳	892													3	103				2			
60歳～69歳	597													1	62				2			
70歳～														3	49							
70歳～79歳	352																		4			
80歳以上	187																		1			